

普遍的な近代の運命 としてのティエアスポラ

徳永恂・小岸昭著

インド・ユダヤ人の光と闇

ザビエルと異端審問 離散とゴアスト

歴史叙述は、いうまでもなく、ひろい意味での物語

「序」(小岸)には

「第一章 インド

「第二章

「第三

「ユダヤ人の

「ティ(徳永)

「ゴアからコーチンに至るイ

「私たちは繰り返し(小

「ユダヤ人街か

「ゴアからコーチンに至るイ

「私たちが繰り返し(小

「ユダヤ人街か

「ゴアからコーチンに至るイ

「私たちが繰り返し(小

「ユダヤ人街か

「ゴアからコーチンに至るイ

「私たちが繰り返し(小

「ユダヤ人街か

人たちの受難の物語が、とりわけ前半二章の主要主題となる。キリスト教に偽装

転向したユダヤ人(マラー

「たちを襲う過酷をきわ

めた異端審問の嵐と、残酷

な火刑という見せしめの宗

教ショー。ゴアを中心とす

が後半二章の主題となるの

だが、徳永は「白いユダヤ

人」と「黒いユダヤ人」と

いうユダヤ人内での差別

(肌の色のちがいは厳密

に対応しない)の由来を執

拗に追求し、背後に「奴隷

ないしは解放奴隷の受難

というより普遍的なテーマ

との交錯をさぐりあて。

以上、交互に語られる四

章は、文学者らしい感性細

やかなストーリー・テリン

グと、思想家らしい冷静な

思考の組み立てが相互に引

き立てあい、全体としてス

インド西海岸で繰り広げられたユダヤ人たちの物語

探訪の旅のドキュメント

坂部 恵

「この運動の中心には、異

端審問所の設置を本国に願

い出たフランススコ・ザビ

エルがいた。イエズス会の

ははげしく糾弾する。

他方で、おなじ西インド

でも、コーチン・ユダヤ人

の命運は、ゴアのそれとは

ちがって、迫害されること

もなく、土着の宗派のひとつ

「神の戦士」として、ひた

すら神の栄光のために。こ

うした姿勢に見られるキリ

スト教の独善、信仰の多元

性や寛容などには耳をも貸

さぬ「普遍主義」、を小岸

ははげしく糾弾する。

他方で、おなじ西インド

でも、コーチン・ユダヤ人

の命運は、ゴアのそれとは

ちがって、迫害されること

もなく、土着の宗派のひとつ

「神の戦士」として、ひた

すら神の栄光のために。こ

うした姿勢に見られるキリ

スト教の独善、信仰の多元

性や寛容などには耳をも貸

さぬ「普遍主義」、を小岸

ははげしく糾弾する。

他方で、おなじ西インド

でも、コーチン・ユダヤ人

の命運は、ゴアのそれとは

ちがって、迫害されること

もなく、土着の宗派のひとつ

「神の戦士」として、ひた



大航海時代とザビエルの世界布教がまきおこした全地球的規模の激動。

46判・284頁・2625円
新曜社
4-7885-0954-7

もわかったものではないの

だ。(さかべ・めぐみ氏)

★とくなが・まこと氏は

大阪大学名誉教授・哲学

・社会思想史専攻。東大

卒。著書に「社会哲学の

へ)など。一九二九(昭和

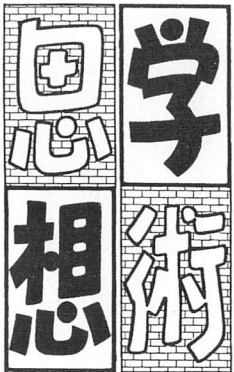
和4)年生。

★とくし・あきら氏は京

都大学名誉教授・ドイツ

文学専攻。京大大学院修

士課程修了。著書に「ス



探訪の記録は、「イエズス

「ゴアからコーチンに至るイ